

# 歩道整備、防雪柵設置などで一步前進

## 県道新井柿崎線整備促進議員連盟が今年も現地視察

県道新井柿崎線整備促進議員連盟の現地調査が31日、行われました。調査には議員連盟に加入している市議全員（11人）と上越市区選出の県議、それと上越地域振興局の担当課長などが参加しました。

今回の調査では地域から要望されている23か所のうち9か所を選んで、車を降り、現地を歩いて関係地域のみなさんから現在の状況などをお聴きしました。

このうち、野尻市内の歩道整備（写真上）に関しては、私が一般質問でも危険箇所として取り上げた場所の一つです。これについては県側から注目すべき発言がありました。今年度は幅広路肩として約100メートルを調査し、工事していきたいというのです。議員連盟などのこれまでの運動が実りました。地元町内会長さんは「古川県議さんの時代から要望してきた。40年がかりで、ようやく動いた」といって喜んでおられました。

三和区下中地内の歩道整備要望箇所（写真中）は、そもそも道路幅が狭くて、しかもカーブしていることから極めて危険な箇所です。上越振興局としては道路改良とい



う形で要望をあげているといえます。一定額の調査費がついたということではありましたが、急いでほしい箇所の一つだと思いましたが、地元の人が私に、「橋爪さん、ここは春になってゴミ拾いするとホイールキヤップがいくつも落ちていくんです」と声をかけてくださいました。冬場、対向車を避けて走る車が道路わきの歩道に接触して外れるということでした。

県道新井柿崎線は冬になると、地吹雪が荒れ狂う道路として知られています。西風、北風をまともに受ける道路だからです。防雪柵の設置はかなり進みましたが、早期に固定型の防雪柵設置という要望が上がっているのは、大潟区高橋新田から吉川区梶地内を経由して柿崎区江島新田に至る間。私も今冬の地吹雪でひどい目に遭いました。梶十文字付近（写真下）で車を降り、大潟区総合事務所と吉川区神田町町内会長さんから説明していただきました。県側の説明によりますと、今年、すでに一次調査（概略設計）が終わり、詳細設計に入っているということでした。具体的な整備までもう一步のところまで来ました。

### 修正しても依然として問題点だらけ…産業建設Gの集約

上越市は27日、市議会総務常任委員会の場で、総合事務所産業建設グループの集約について、平成25年度に13区全体で試行・検証したうえで、平成26年度から本格的に実施する方針を発表しました。

上越市は先月7日の総務常任委員会では、13区の総合事務所を4つのグループに分け、現在各区にある産業建設グループを「グループ内の一か所の総合事務所に集約する」方針を示し、平成25年度からいきなり13区で一斉に本実施する考えであることが明らかにしていました。

これに対して総務常任委員会では、「試行もせず本実施とはとんでもない」などと反発する声が相次ぎました。今回の方針はこうした指摘を受け、一定の手直しをしたものです。

27日の委員会で私は、行政側が一定の修正をしたことを評価しつつも、各区総合事務所において区出身職員を一定数確保することの重要性を依然として軽視していること、何を試行し、どういうポイントで検証するかもまだ明らかになっていないことを批判しました。また、行政側は「産業建設グループを集約しても、申請・届出・相談等の対応は従来通り総合事務所で行い、市民の利便性を維持する」としていますが、これもあやしいものであることが明らかになりました。この対応のために総務・地域振興グループ内にその担当者を一定数配置するというのです。

これではまず集約ありきであって、住民サービスにつながるものだとおぼろげをえませんが

# 春よ来い

## 第二十四回

### 餅まき

ジージーというセミたちの鳴き声が一瞬やんだように思えました。パンパン。町内会長さんや棟梁さんの動きに合わせて手のひらを打つ音が新しい集会所の建築現場に響きます。

七月下旬、三〇度を超える猛暑となった日の夕方、吉川区大乘寺でコミュニティセンター(集会所)の上棟式が行われました。集まったのは、町内会役員、工事関係者、地元の人たちなど約八〇人です。そのなかには保育園に通っている子どもたちやステッキカーを頼りに歩いている人もいました。

祈願の儀式が終わって、足場の一番高いところに立った一人の大工さんが棟札を柱に打ち付けます。トントン、トントン。この音がまた式場に響きました。いいもんですね、金鎚の音は。

進行役のYさんが「これより餅まきの準備をさせてもらいます」と言うと、集まった人たちの餅まきへの期待が一気にふくらみました。餅まきを経験したことのある人もない人も餅まきを待ちます。私の近くにいた誰かが、「いよいよ餅まきか」と言うと、うちわを持ったSさんも、「いまどき、こいがやるとこないろ」とつぶやきました。餅まきの情報を聴き、地元紙の記者も駆けつけています。

若い大工さんたちが屋根に上がったところで、Yさんが、「町内会長さんが大きな餅を作ってくださいました。あんまり大きいので怪我をしないように、あせらないで気をつけて拾ってください」と告げました。

用意された餅は直径三〇センチ弱の大きなもので、建物の隅から落とす餅です。「いいかな」「はい、いきますよ」屋根の上の大工さんの掛け声した後、ドスンという音がして、落とされた大きな餅が土ぼこりをたててバウンドしました。これにはみんなびっくりしました。

続いて、紅白の四角い餅、お菓子などがまかれました。「危ない危ない、怪我しな」という誰かの声になったのでしようか、大工さんたちは最初、遠慮がちに、そつと餅を落としました。すると、棟梁さんの声が飛びました。「上にごつと上げるもんだ。ごーつと。怪我するもんなんかいわ」。それから元気な餅まきに変わりました。餅を拾う大人も子どもも大はしやぎです。

屋根から曲線を描いて落ちてくる餅を手で直接捕ろうという人はほとんどなく、土の上で落ちるのを待って、餅をほしい人たちが一斉に動きます。子どもさんたちの中から、「流星群みたいだ」という声が上がりました。大人たちの中からは、「野球みたいにグローブでとりたいいだ」という声も出ました。いくつも拾ったのでしよう、「おっ、ほほほ」という喜びの声も聞こえてきました。

大人の中で一番張り切っていたのはスーツ姿の町内会長さんです。マイクを使ったときと同じくらい大きな声で、「ヨイショ！」「ほらほら、とれ」「ほら、第三弾！」「よーし、最後の一発。とれとれ」「ヨハン(夕飯)いらんど、これ食べれば」などと言っては盛り上げておられました。

餅まきは始めてから終わりまで約一五分。「もう、ないのかね。早いもんだね」という声がありました。短いと言われれば短いかも知れませんが、大人も子どもも貴重な体験をし、大いに楽しめました。この日の楽しい餅まきの様子はいつまでも語り伝えられることでしょう。

年の間に急速に減っています。

左上の写真は、板倉区針にある板倉郷土館を視察する総務常任委員会メンバーです。懐かしい民具や記録写真などたくさん置いてありました。明治初期の建物で、こちらも老朽化が著しい状態です。年間利用者は100人から200人ほどしかいないといえます。でも、建物も保管している民具なども貴重なものばかり、なんとかならないものかと思いました。

この日、視察した施設の中にはテニスコートが2つもありました。三和区の西部テニスコートと板倉区の板倉北部運動公園コートです。左下の写真は板倉のコートです。どちらもまだ十分使える施設ではありますが、利用者はほとんどなく、困っているということでした。テニス人口が増え、昼も夜もテニスという時代は終わったのでしょうか。さみしい感じがしました。

## 総務委、今年度廃止予定の施設を視察

上越市は今年度末までに、公の施設としてほとんど利用がされていないとか、耐震基準を満たしておらず現状のまま利用継続が難しいと判断した23の施設を廃止する予定です。こうした中、市議会総務常任委員会は先月27日、廃止予定の施設のうち7施設を見て回りました。

最初に視察したのは、国府1丁目にある上越青少年文化センター。建築後41年経過していて、老朽化が進んでいます。メンバーは雨漏りなどの状況を確認してきました。数十年前は、星の観測、科学実験などで先端を行く施設だったと思いますが、昨年度の施設利用者は約6万人で、こ



【山ごぼうの葉干し】

暑い日が続きますね。写真はごぼうの葉干しです。ソバのつなぎにするのだそうです。小苗代にて。